

1801

0081

五

決裁指定

房官臣大	課局務主	了結	領受	出提	領受	號番
大正	大正	大正	大正	大正	七	係庫

證認濟裁決

大臣

件	番	受
5	號	領

連帶
課名



山樽徳四少葉燦祭
大正七年

決行後
課名








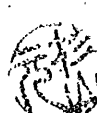




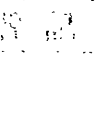



1801 0081

五

決裁指定

魔

受番 報第一號 應名 第七師團經理部		連帶 課名 陸軍糧秣廠視察出張所糧食貯蔵倉庫其他災害復旧工事ノ件	
次官 		高級 副官 	
主務 副官 		主務 課長 	
主務 課員 		主務 課長 	
主務 課員 		主務 課長 	
局長 		局長 	
局長 		局長 	
局長 		局長 	

決行後回
覽調名

一輪

陸軍
13.1.23
午前 12時
軍事課

陸軍
14.1.23
午前 1時
衣糧課

第七師團經理部(連業)

西奈

首題工事ハ別紙仕譯ニ據リ本年三月末日迄
完成セシムルニ但シ經費ハ臨時軍事費ノ支辨トシ
陸軍省經理局主計課ニ請求スルニ

西奈第一七七號

二月廿九日

秋原切

1803

此等事務トナリ

陸軍省經理局

済

説明ターゲット

次の原稿破損

6 年 9 月 13 日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



報

電報譯

上月二十七日午前午後

九時

第二一號

陸軍大臣宛

發信者

北區道

長官

小樽市

松谷汽船會社

所有

丸

體石見澤

方面鑛山

田火

燄類四七

積載

小樽港

入港

之類火藥類

積載中

三十七日

午若一時

四十分頃爆

死傷者

多數

見込

目下判明七八

死者

三十名

傷者

三十名

巡査

二名

生死

不明

小蒸汽船

二隻

船

全滅

陸軍

部

三隻

全滅



糧秣廠事務所 倉庫 船舟十隻
 附各會社ノ事務所 護岸一部
 發痛台車 碼頭十台 及 碼頭破壞
 原因其他 調査中

右記左記（送付情）十月二十日午

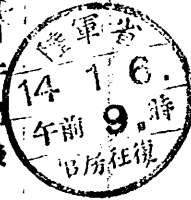
大任 次官 政務次官 兵部次官 方及 勸業 河務局長
 任理局長 島本局長 送付局長 甲子局長 社務局長



報

電報譯

十二月二十七日 午前九時 午後一時 二十五分 著



第三四號

陸軍大臣 宛 發信者 北海道長官

既報小樽港内火茶爆発事件其後判明セル所尤、如シ

一、爆発日時、二十七日午後一時二十八分、

二、爆発場所、手宮貨物駅貯炭場三番沖合七間許箇所、

三、爆発火災、爆炭八九箱導火線一五箱及石油一〇〇箱、

四、被害区域、未廣町最モ甚クシク手宮町、錦町、色内町等ニ

次ギ、稲穂町最モ少シ、

面積東京十町、南北四町、家屋全壊二〇棟、

半壊六一棟、

五、死者

水上ニテハ既報ノ通り

二十六名、重傷者六十七名、軽傷者百十六名ア

リ尚傷者アル見込ニテ海中捜索中ナリ

負傷者ハ小樽病院外立箇所ラシテ警部

之ニ收容救護中

六、爆発ノ原因

不明ナルモ扱ノ粗漏ニ依ルモノノ如シ

1810

報

電報譯士

月 庚

日 午 前 後

時 五

分 五

分 著

第 四 號

大 臣 宛

發 信 者

第 七 師 團 經 理 部 長

出 張 負 報 告 依 小 樽 報 社 廠 出

張 所 爆 炸 事 務 室 倉 庫

倒 壞 七 日 七 日 甚 大 依 據 倉 庫

毛 房 損 害 了 職 務 無 事 格 納 品 損 害

無 事 損 害 小 樽 運 輸 部 出 張 所

損 害 無 事 損 害 無 事 細 文

陸 軍

抄

1181

三七五

小樽港内火药爆発之原因及小樽出張被害
体報告

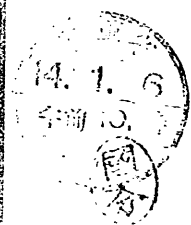
大正拾參年三月廿八日

陸軍糧秣本廠長西村多二郎

陸軍大臣宇垣一成殿



本月至廿四午後一時五分當廠札慢兼出張小樽出張被
害近海岸解舟内火药爆発并折柄出張出張被
害中、雇員一、傭人二、負傷一人倉庫一棟全壞(在庫品損
害輕微、見込)致候間不取敢及報告候也
是而該火药、民間出張有、被在候、付為念中係小
樽出張出張被、業傍補助及状況調査、為、廠員一名



1812

不取敢、出張報告、
尙、出張出張、
出張、
出張



原簿



張被張

多一即



不樽出張

張被張

張被張

也

為愈中係

少厥負一名

1812

不取最信報告清
尚希伴以經理為長、通報清
印之



現地山張セウ候同詳報ニ追テ報告ノ存候

抄

糧秣第一號

大正拾四年壹月四日

小樽港火藥爆發ニ基因スル小樽出張所爆破ニ關スル件

陸軍糧秣本廠長西村多二



陸軍大臣 宇垣一成 殿

客年十二月二十七日小樽港ニ於テ民間所有火藥爆發ニ基因シ
當廠小樽出張所爆破ニ關スル事件ニ關シテハ曩ニ不取敢概要
報告致置候處其後ノ詳報到着ニ付左記及報告候也

左記

一 發生月日時

大正十三年十二月二十七日午後一時三十分

二 原因



小樽港内ニ於テ揚陸中ノ民間所有ノ火薬ノ爆發(責任ノ歸屬ハ荷主運送者ノ人夫業者ノ何レニアルヤ未ク不明)

三、罹災場所

北海道小樽市北濱町番外地陸軍糧秣本廠札幌出所小樽出張所構内(別紙要圖ノ通)

四、人馬死傷数

輕傷者五名

雇員	横内榮熊	頭部負傷 肋骨打撲
庫手	大枝繁吉	頭部負傷
筆生	追分 稔	右目及顔面負傷
職工	牧野松榮	頭部負傷
常備夫	渡邊 きよ	頭部負傷

海防製

横内産員、肋骨打撲ハ醫師ノ診断ノ結果静養数日ヲ要スルモ
 重傷ニアラサルカ如シ其他入院者ナシ員傷儘勉勵勤務中ナリ
 五、動産不動産被害、狀況程度損害見積價格

區分	名称	員數	被害、狀況程度	損害見積價格
不動産	事務室	一棟(五坪)	窓側壁全壊、柱折多ク執務困難大修繕ヲ要ス	復旧、為、約貳萬圓ヲ要ス見込
	倉庫	一棟(三六坪)	窓側壁全壊柱折多ク小屋組ヲ隔キ全部修繕ヲ要ス	四五〇貫(約一五万)ノ見込
動産	糧秣	平時補給用燕麥	海没四五捆、見込	ノ見込
	還送品	金	損害輕少	
	有價證券	金		
備品	机椅子、戸棚等備附品大部	机椅子、戸棚等備附品大部	分破損	約四〇〇円ノ見込

(備考) 一、建物ノ損害ニ付テハ第七師團經理部ニ詳細ナル調査中

陸

軍

二、燕麥ハ災害當日船積發送セカレモノアルモ萬株散散シ確實ナル數ヲ知ルヲ得ズ宇品支廠ニ到着ノ後其ノ積害ヲ確アルコトニ手配中ナルモ大ナル積害ナキ見込ナリ

六 處 置

(1) 非常持出品現金、有價證券、其他書類

災害直後借上倉庫中比較的完全ナリシ第三番庫ニ移シ羽立日災害ノ靜マルヲ待テ一部必要ノモノハ事務室(比較的破損セカレ一室)ニ移シ執務ス

(2) 糧 秣

災害當時運送船ニ積込中ナリシ燕麥ハ既ニ積込ヲ了シアリシモノハ直ニ宇品ニ向ケ出帆セシメテ危陰ヨリ免レシメ未ダ採舟中

ニアリテ海は又ラ免レタルモノハ直ニ倉庫内ニ取込キ

倉庫内ノ燕來タニ對シテハ破損セル側壁ハ天幕又ハ板ヲ以テ覆
ヲナレ盜難ト雨(雪)濕レテ防止スルノ手段ヲ執ル

(3) 建物

(1) 第七師團經理部ヨリ災害當日(ニ十七日)午後十一時主計正部
員一名出張シタルヲ以テ不取敢損害箇所中内容品ノ保護及建物
ノ危険防止上必要ナル應急處置ヲ要求シ尙出張所ニモ不取
敵人夫ヲ僱役シ有合ノ板材等ヲ以テ屋根、側壁等雨雪漏盜
難豫防上必要ナル箇所ニ對シ應急處置ヲ施レタリ

(2) 第七師團經理部ニ於テハ豫算九百五十円ヲ以テ應急修膳糧秣
保護建物ノ危険防止、執務ニ差支ナキ程度ニ着手セリ

(4) 備品其他

損害品ト然ラサルモノトノ區分調査シ目下其ノ整理ヲ實施中ナリ

七、復旧ノ要否

左記ノ通復旧ノ要スル見込ナリ

事務室

一棟 (五十三坪)

木修繕 見込経費約貳萬圓

倉庫

一棟 (三百六坪)

備品

机椅子戸棚等若干

同

約四百圓

八、雜件

(1) 小樽出張所爆破ニ際シテハ陸軍運輸部小樽出張所長岡村翁輔及

小樽救護班長大西慎ニ、多大ノ援助ヲ受ケタリ

(2) 火害當日輸送燕麥ノ船積ニ從事中ナリシ人夫頭一名

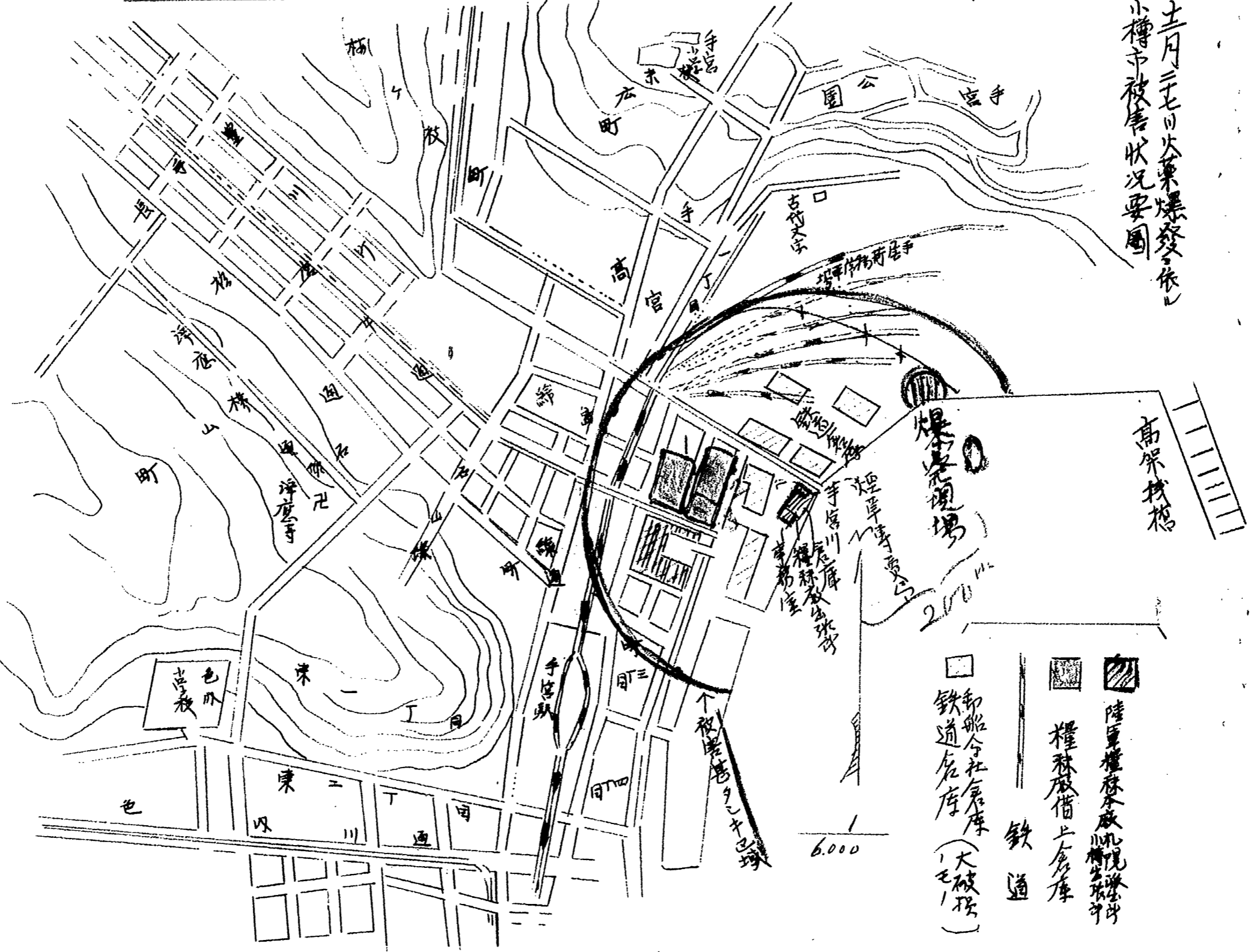
(郵船會社傭役人夫)ハ重傷シ目下入院中生命覺束ナシ
 又人夫小頭一名(小樽市田組傭役人夫)モ輕傷(額及口ニ
 負傷)セルモ何レモ負傷ノ儘良ク糧秣、保護ニ努メタリ
 其ノ行動賞スルニ足ルモト認メタリ

山田

陸軍糧秣本廠札幌派出所小樽出張所附近一般區

上月二十七日火災爆發後之
小樽市被害状況要圖

一般民家、被害約五千戸、及乃本圖記入ノ外一般ニ察カラス
等、破損ニ違ハス



1822

抄

被害ノ原因

大正十三年十二月二十七日午後一時二十七分

左記ノ通報報告候也
追テ在来建物ト復旧トノ比較表等ハ不日
提出致スヘク申添候

左記

陸軍大臣宇垣一成殿

大正十三年十二月三十一日

第七師團團長西

黙

陸軍糧秣本廠札幌派出所小樽出張所倉庫其他被害件報告

七師團第九七〇号

報

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省
14. 1. 7
午後 3 時

1823

履
同
員
可
也
云
々

二十七分

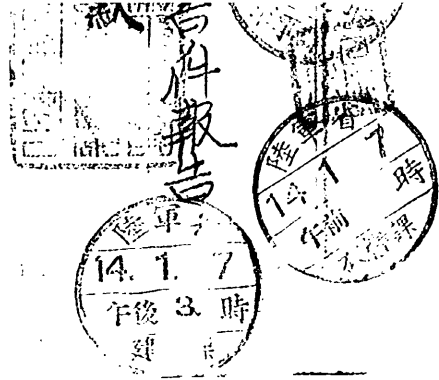
等八不日

題ノ件

展覧會
同員
可也
之員

中
ノ
半

1823



川樽港手宮驛構内貯藏沿岸（陸軍糧
 秣廠）川樽出張所北方約二百米に於て山口
 縣厚狹郡日本火藥會社ヨリ札幌三田火
 藥店及岩見澤川口屋火藥店宛發送
 シタルダイナマイト雷管八百五拾個導火
 線拾五個合計八百六拾五個ヲ汽船ヨリ
 揚陸作業中爆發セルモノニシテ死傷者
 數百名ニ達シ附近倉庫事務所船舶貨
 車客車軌條等ノ倒壞傾斜及破壊セル
 モノ多數ニ上リ其ノ損害巨額ニ上ル見込ナ
 リ

二、陸軍糧秣廠小樽出張所被害ノ程度

一、事務所倉庫共各出入口及窓ハ殆ント破壊
セラレ完全ナルモノナシ

只倉庫北側專柱間柱等全部破壊飛散
ス

ハ倉庫東側軒桁各所折損シ各出入口其
他柱折損・屋根ノ墜落ヲ来サントスル箇
所アリ

ニ倉庫ト事務所トノ間仕切梁折損シ危
険ノ状態ニ在リ

ホ入夫休憩室天井破損墜落ス

ハ、事務所内事務室東側柱及桁折損ス
 卜、倉庫西側羽目全体外部ニ澎張シ各出
 入口窓破損ス

イ、倉庫棟約十間飛散セリ

ロ、小屋組ハ堅牢ニシテ被害少ナシ

ヌ、基礎及床ハ被害程度比較的少ナシ

三、應旧ノ處置

イ、倉庫ハ目下燕麦満載カサレアルヲ以テ北
 側妻ハ盜難豫防ノ為メ丸太及横木ヲ取
 付ケ糾離シタル鉄板ヲ張付ク

ロ、倉庫及事務所軒桁柱折損セルモノ及倉

庫ト事務室間仕切ハ屋根墜落ノ虞
 アルヲ以テ之カ豫防ヲ施セリ

ハ事務所中應接室・守警控室・宿
 直室、ハ使室・湯沸所・廁ハ在末品、
 使用ニ堪ヘルモノハ之ヲ應用シ執務
 上支障ナキ程度ノ應急修繕ヲ妥具施
 ス、

ニ其他壁、眼鏡石等ノ應急修繕ヲ實
 施ス

ホ、以上應急設備費金九百五拾圓ヲ要
 ス

四、事務所倉庫復旧ハ追テ調書ヲ附シ伺出
ツヘキモ概算約貳萬圓ヲ要スル見込
下ス

外報

報

一

共

八

陸軍省
14. 1. 6.
午後 12時

陸軍省
14. 1. 15.
午後 2時
茶課

大正十三年十二月二十八日

北海道庁長官

内務大臣殿
鐵道大臣殿
逓信大臣殿
陸軍大臣殿
農商務大臣殿

小樽市火薬爆発ニ関スル件
電報ヲ以テ屢々報ノ通り本月二十七日

小樽市鐵道構内山岸壁ニ於テ火薬
爆発致シ損害八九十萬圓死傷三

陸軍省
14. 1. 14.
午後 12時

百名ヲ出セル事件 発生セルカ 只今
迄ニ判明セル所ヲ概括スルニ 灰記ノ
通りニ有之候条 此段及報告候也

一、爆発ノ日時

十二月二十七日午後一時二十八分

二、爆発ノ場所

少樽市手宮 貨物驛 野山炭場

山岸壁附近 (船カ上ナルカ)

但シ船カ 並ニ山岸壁上ニハ 硝安火

菜積載 又ハ陸揚シアリ 少樽

敬言 家方 四番 巡査 高橋 富五郎 同

水上 四番 巡査 山岸 政吉 及ヒ 坂店

タル栗山組運送店々員幸村與三郎
監視取締ノ爲メ乗組ニ其他積取
人夫十名位アリタルモノノ也

三、爆發ノ火薬石油

前脚記載ノ解船上ニハ硝安火薬

二百二十匁 又陸揚シアリタルハ同火薬

三百七十匁 導火線十五匁 及ヒ

該解船ヨリ二十間許リ距リタル箇所ニ

アリタル別ノ解船上ノ揮費油一千匁カ

爆発シタルモノ也

猶ホ該火薬ハ山口県厚狭港日本

火薬會社ヨリ札幌市三田火薬店

及ヒ山名見沢町林國造ニ向ケ賣送セル



二 寸 澤 運 庫

硝安火薬六貫入八百五十匁ノ導火線
十五匁ノ一部ニシテ昂ク汽船正保丸
之ヲ運搬シ来リ取扱店栗山組運送
店ニ於テ引受ケ内火薬二百六十匁ハ
已裝列車ニテ裝送ニ終リ其残リノモノカ
爆薬ニシテモ也

四、被害区域

陸上ニテ東西十丁南北四丁ニ亘リ
末廣所ノ被害最モ甚シク手窓所色
内所之ニ次キ箱穂所最モ少シ

五、損害

今日迄ノ判明セルモノ別表ノ如シ

六、爆発ノ原因

取締巡查兩名、初ノ現場ニ在リタル者
 悉ク死セシヲ以テ爆祭ノ原因全ク明
 ナラス蓋シ取扱ノ粗漏ニ因レモノノ如シ
 七、爆祭ノ状況

火薬爆双發スレヤ其音郷音ハ十里ヲ距
 リタル札幌市ニマテ達シテ樽市ニ於
 テハ別表ノ如ク建造物ノ倒壊並ニ死
 傷アリ猶ホ現場ニ距シ約百間ノ皆
 所錦町五十二番地薬種高寺井喜
 三方ニテハ談爆祭ニ依ル振動ノ爲メ
 棚上ノ揮發油燻ニ顛倒傷ノ暖炉上
 ニ墜落爲メ出火シ住家十一戸八棟
 延焼セリ

八、救護ノ状況

事件発生後 市ニ於テ直ニ北濱町埋立
 地ニ救護事務所ヲ開設シ員傷者ハ
 少樽消防組救護隊ニ於テ少樽病院外
 七ヶノ病院ニ收容 医師等ニ於テ互ニ連
 絡ヲ取リ 医師 看護婦等ヲ融通シ
 猶ホ消防組第四部第八部兩所ニ無
 料診断所ヲ開キ且ツ巡回治療ヲ爲シ
 たり 又被害者家族等ニ對シテハ市ノ
 救護条例ニ依リ救護ヲ行フノ外新聞
 社等ニ於テ義捐金募集シ之ヲ慰給
 スルヲ活動中也

九、其他

本府よりハ直々ニ内務、警察、西部長
 及警察、医其他リ派遣シ且ツ札幌市
 駐ニ赤十字社支部よりハ救護班ヲ編成
 派遣シ、鉄道局、通信局よりモ救護隊
 通信隊ヲ出ス等、善後策ニ遺漏ナキヲ
 期シタリ、其一時混亂状態ヲ呈シタリモ最
 早人心平靜ニ解シタリ

損害一覽表

十二月二十八日午後四時迄の被害ノ

倉庫全焼	一棟	比	建物損害	二五八、〇〇〇円
半焼	二九棟	比	貨物	八〇、〇〇〇円
人家半壊	四棟	比	建物	一〇〇、〇〇〇円
戸屋全壊	四棟	比	其他	二七、〇〇〇円
半壊	一八棟	比	建物	二〇、〇〇〇円
全焼	五八棟	比	其他	二〇、〇〇〇円
半焼	三三棟	比	其他	二〇、〇〇〇円
保線係	一棟	比	其他	一三、〇〇〇円
運輸関係	一棟	比	貨物損害	四九五円

	貨車	客車	機関車	損害額	不妊
全壊	五	一	一	撞害額	不妊
大破	七	一	一	〃	〃
中破	一	一	一	〃	〃
中破汽船沈没	二艘	(引揚げ得)	(引揚げ得)	五、〇〇〇円	
船沈没	一三艘			三九、〇〇〇円	
回破損	一四艘			一〇、〇〇〇円	
船舶積載ノ貨物損害				七〇、六五〇円	
合計				八六〇、六四五円	
二、死傷者					
昂死 (死体発見ノモノ)				三六名	
病院収容後死セリモノ				七名	
重傷者 (入院セリ者)				六二名	

一萬圓	手宮町三丁目	北都組倉庫
一萬五千圓	色内町二丁目	北澤倉庫
一萬五千圓	白	③ 印倉庫
五萬圓	手宮町三丁目	共同運輸倉庫
一萬圓	白	栗山組倉庫
一萬圓	白	伊藤倉庫
一萬圓	白	廣見倉庫
二萬五千圓	白	陸軍糧秣廠出張所
十萬圓	北浜町二丁目	陸軍毒賣局出張所
豊害 類	建築物ノ位置	建築物ノ名称
三、被害建築物中主たるモノ		
輕傷者 (医療を受けた者)		一八六名
行衛不明者 (取締り調査した者、却り)		未確定

北 海 道 建 庫

一 第 四 一 号 室 町 三 丁 目 一 運 輸 倉 庫 手 室 組

四、死 傷 者 中 連 士 者

十 樽 敬 之 家 回 者 巡 査 高 橋 富 五 郎

口 水 上 署 巡 査 岸 政 吉

右 西 名 理 場 之 在 リ ヲ 取 締 ノ 爲 シ 屈 スル 元 ノ

十 七 加 着 衣 及 本 人 ノ 警 察 手 帳 断 片 等 ヲ

其 是 也 之 付 拘 職 せ し 事 ト 認 べ 也

ハ 甚 重 抗 船 ハ ヤ ト 九 船 長 本 林 田 清 之 藏 (死 七)

其 他 死 傷 者 概 不 另 傷 者 也



民間火藥爆發ニ関スル件報告

大正十四年一月六日 憲兵司令官荒木貞夫

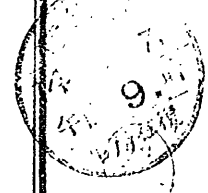
陸軍大臣宇垣一成殿

大正十三年十二月二十七日午後一時二十七分小樽港内ニ於テ
民間火藥陸揚中爆發ニ死傷者約四百名倒壊家屋八十
棟其他建造物ニ多数ノ損害アリ又陸軍糧秣廠小樽出張
所負重輕傷三名廳舎及倉庫ノ一部倒壊シ在庫品備品
中損害アリ狀況左記ノ通ニ付及報告候也

左記

一火藥ハ山口縣厚狹日本火藥會社ヨリ札幌市三田火藥

1840



一



店及空知郡岩見澤町川口火藥店ニ送付スハキダイナマイ
 ト九百五十箱導火線十五箱ヲ十二月十七日山口縣厚狭
 ニ於テ汽船正保丸ニ積込之同二十五日小樽入港同地松
 谷及栗山兩運送店ニ於テ手宮組人夫ニ依リ大船ニ隻ニ積
 取り二十七日手宮驛構内ニ繫留陸揚中午後一時二十七
 分誤ッテ爆發センモノナリ

二、爆發現場ハ手宮驛東方海岸貨物取扱場ニシテ附近ハ
 鐵道附^屬建築物運送店倉庫等ヲ主トシ民家ハ其南
 方ニ接續シ手宮町錦町町末廣町アリ爆發ト同時ニ
 附近倉庫住宅全壞十六棟半壞四十三棟鐵道建築物
 船舶船貨物等相當ノ損害アリ附近民家ニ於テモ屋根瓦

山中稿

戸障子物品等ノ被害多大ナリ當時火薬ノ陸揚ト同時ニ附
 近陸岸繫留ノ各種船十隻ヨリ貨物揮發油等陸揚中ニ
 エテ死傷者ハ主トシテ人夫船員運送業、鉄道従業員等ニ
 シテ火薬爆發ト同時ニ吹飛サレ現在收容死体四十七重
 軽傷者三百四十名其他行衛不明者十数名アリ重軽傷者
 ハ市内(小樽)各病院醫院ニ收容手當中ニシテ小樽在郷軍人
 分會救護隊水難救濟會等出動應援セリ

三、爆發當時ハ輻湊セル年末用貨物取扱ノ爲メ平常ニ比シ多
 數ノ従業員現場ニアリタルカ爆發ノ原因ニ関シテハ従業員
 ノ多數カ死傷セシ爲メ詳細判明セサルモ火薬ハ船ヨリ大部
 分陸揚貨物車ニ積取リ殘部ノ若干ヲ運搬中ナリシト積取

中ノ貨物車附近ハ土地陥没シ海岸石垣約二十間崩壊シ火薬ノ積載シアリタル船二隻ハ破壊シアラステ海中ニ轉覆シアル等ヨリ察スルニ陸上ニ於テ爆發セシモノト思科セラル

四、爆發現場ヨリ約六百米西南方海岸ニアル陸軍糧秣廠小樽出張所ハ震動ニ依リ倉庫一部倒壊シ燕麥二十俵海没シ蔽廠舎ハ大破シ備品器具等完全ナルモノナク雇員一名重傷ヲ負ヒ職工及人夫各一名輕傷セリ而シテ倒壊倉庫ハ民間ヨリ借上ノモノニシテ糧秣廠トシテノ損害ハ約二万円内外ナル由ナリ尚陸軍運輸部小樽出張所小樽憲兵分駐所其^他軍用建物船舶ニハ損害ナシ

五、陸軍運輸部小樽出張所ハ飯島大尉指揮全員出勤救護

ニ努メ海軍特務艦大泊リ十二月二十五日亞港ヨリ小樽入港
 碇泊中ナリシカ爆發後短艇ニ隻下士官兵百名ヲ現場ニ派
 シ救護並ニ死体搜索等ニ應援セリ又小樽市役所ニ於テ
 毛人夫八十名ヲ派シ関係人夫ト協力潜水機十個ヲ使用シ
 死体搜索中ナリ其他日本赤十字社北海道支部ヨリ醫
 員看護婦ヲ小樽市ニ派シ色内町消防番屋ニ診療所
 ヲ開設シ災害者ニ無料施療シタリ

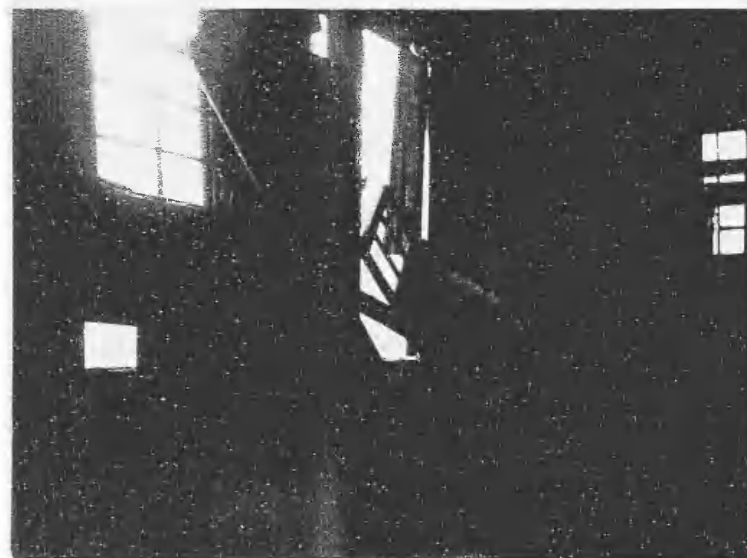
天憲兵ハ陸軍種稜廠小樽出張所ニ詰切リ警戒救護並
 盜難火災等ノ豫防ニ努メ居レリ

(3)

1845

寫
本
入





子陽堂内書
羅氏子書

1849



借上分三辨分存
及分三于一存分存
分三于一存分存
下如御儀

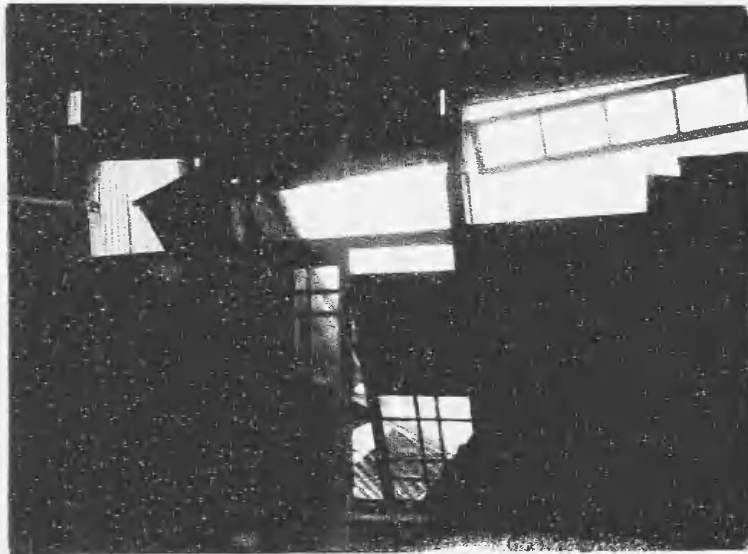
1851



金部ノ事

1853

1853



磯工
和池内

1855



皇太后御書 (辛卯)
御方御書及金屏
一冊

1857



徳島県立

徳島県立七〇目

徳島県立三〇年

1859

1859



今年世陽

陽愛而切之為之

如天

内神ノ白布ニ葉有葉有
ノ天幕ニ去ニ布有也

1861



羅漢後七百目
抄上多抄數

1863

198T

陸軍 大 号

教 一

陸軍糧秣本廠札幌出張所少将
出張所倉庫其他災害復旧元件報告

大正十四年一月十七日

第七師團經理部長大西

陸軍大臣宇垣一成殿

客年十二月三十一日附七經營第九七

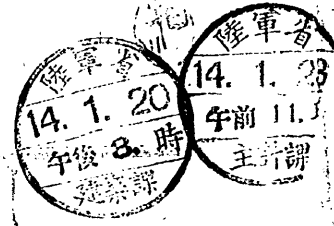
口號報告二條ル首題、件別紙被

害、原因及復旧明細書、通二候

間豫算令達相成度候也

追々被害建物ハ維持上危険状態ニ

ナルモノニ付復旧ハ急ヲ要シ候間認



998T

1866

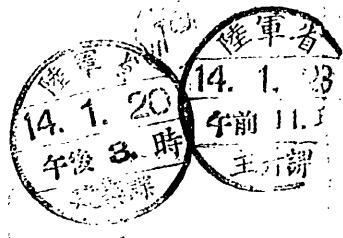
Vertical handwritten text on the left margin

Vertical handwritten text in the middle margin

Vertical handwritten text on the right margin

候 狀 能 心
問 認

第九七
別紙被
通二候



998T
1866

598T
本件本年三月迄に渡り了る如
至為早急に御返答を乞

本 務 印

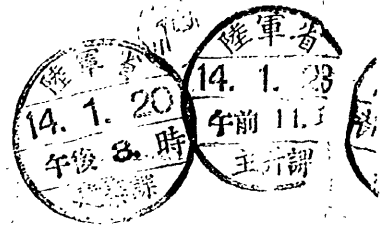
候間認
狀態

通二候

1866

手紙
拾得
名極
子

陸軍省



1867

可方特ニ電報指令相成度申添候

第六号

被害ノ原因

大正十三年十二月二十七日午後一時三十分、樽港手
 官驛構内野藏沿岸（陸軍精練廠）出張所北方約
 二百米ニ於テ山口縣厚狭郡日本火薬会社
 ヲリ札幌三田火薬店及岩見澤川口屋火
 薬店宛發送シタルダイナマイト雷管八百五
 拾箇、導火線拾五箇合計八百六拾五箇ヲ
 汽船ヨリ揚陸作業中爆發セルモノニシテ
 死傷者數百名ニ達シ附近倉庫事務
 所船舶、貨車、客車軌條等ノ倒壊傾斜
 及破壊セルモノ多數ニ上リ其ノ損害甚

1869

額ニ達セリ
右ノ為陸軍管造物ハ災害ヲ蒙リ別紙
明細書ノ通り復旧ヲ要ス

陸軍糧秣本廠札唎派出新小樽出張所事務所及倉庫炭害復旧明細書

陸軍糧秣本廠札唎派出新小樽出張所事務所及倉庫炭害復旧明細書

第七新團經理部

一金壹萬五千貳拾六圓也


内 計

名	称	構造	積量	單價	計	設 計 大 要
倉庫側煙壁及窓	出入口破損復旧	外部鉄板張 釘釘物同板張	六九間	七四〇	五〇六	倉庫側煙壁及窓出入口破損復旧 外部鉄板張釘釘物同板張 計六九間 七四〇 五〇六
小室組母屋破損復旧		木造	一六間	一〇〇	一六〇	小室組母屋破損復旧 木造 計一六間 一〇〇 一六〇
窓及出入口建具破損復旧			二八ヶ所	三〇	八四〇	窓及出入口建具破損復旧 計二八ヶ所 三〇 八四〇
屋根鉄板破損復旧			一〇〇坪	八〇	八〇〇	屋根鉄板破損復旧 計一〇〇坪 八〇 八〇〇
計					五〇六	

1872

個
三六正
十三年
正月
二十七日
失害、為
メ被害ニ
對スル
復旧費
ニシテ
其、被害
原因個所
等別紙通
リ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="691 461 1010 819"><tr><td data-bbox="697 461 1003 584">3</td></tr><tr><td data-bbox="697 584 1003 707">2</td></tr><tr><td data-bbox="697 707 1003 819">1</td></tr></table>	3	2	1
3				
2				
1				
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため			
<p data-bbox="272 1211 1315 1373">上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p data-bbox="363 1518 928 1601">6 年 9 月 13 日</p> <p data-bbox="536 1722 829 1785">主務者又は</p> <p data-bbox="531 1877 1430 1980">撮影立会者 加部東 保夫 </p>				



鉄道省用地

手宮川

15⁺0

庫倉

1873

小樽港

海岸

50

50

80

倉庫

64.0

通路敷地

1874

陸軍糧秣本廠
札幌派出所

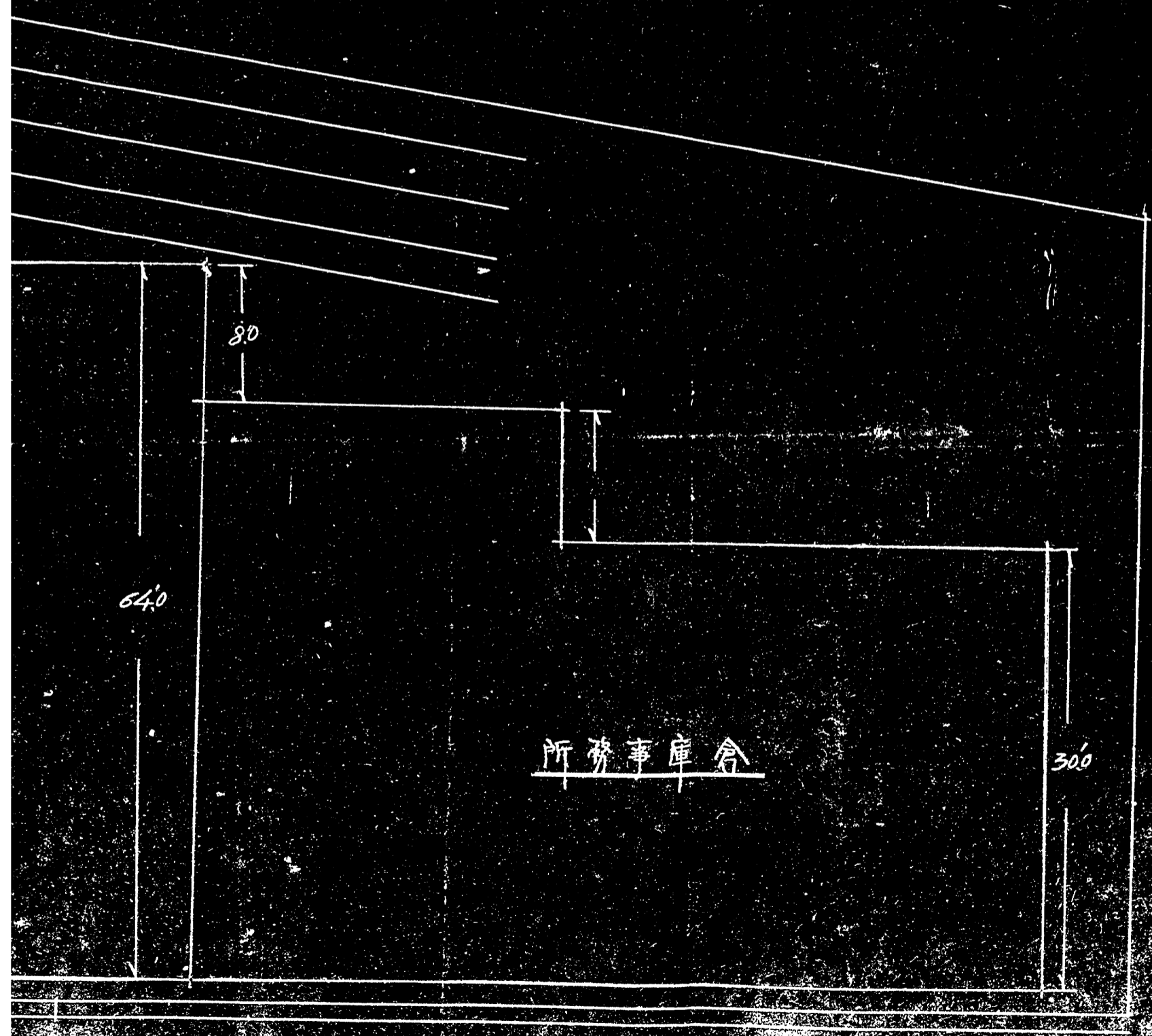
小樽出張所配置図

(災害)

縮尺百分之度

凡例 — 建物位置を示

荷揚地



配
置
図

説明ターゲット

次の原稿破損

6 年 9 月 13 日

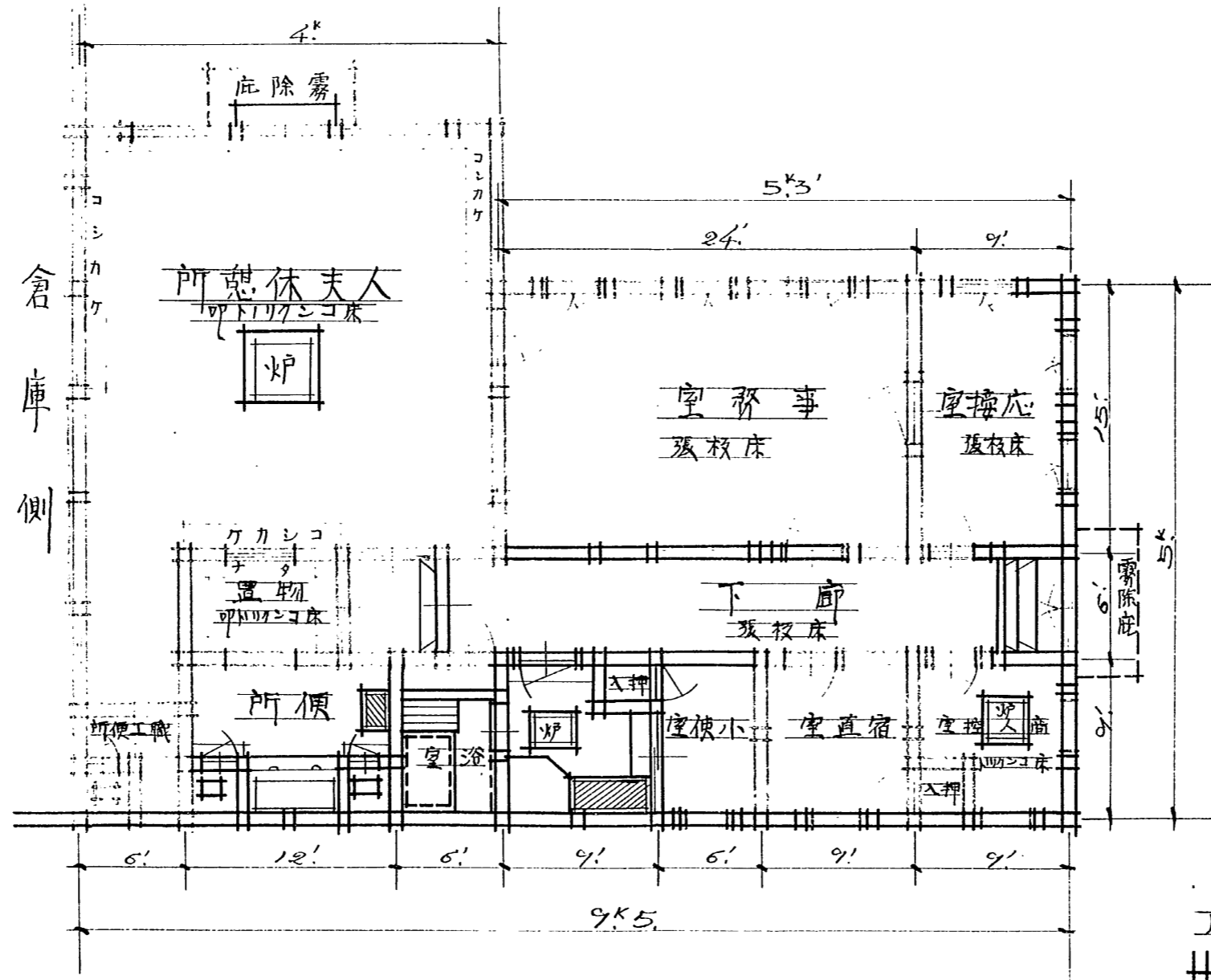
主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



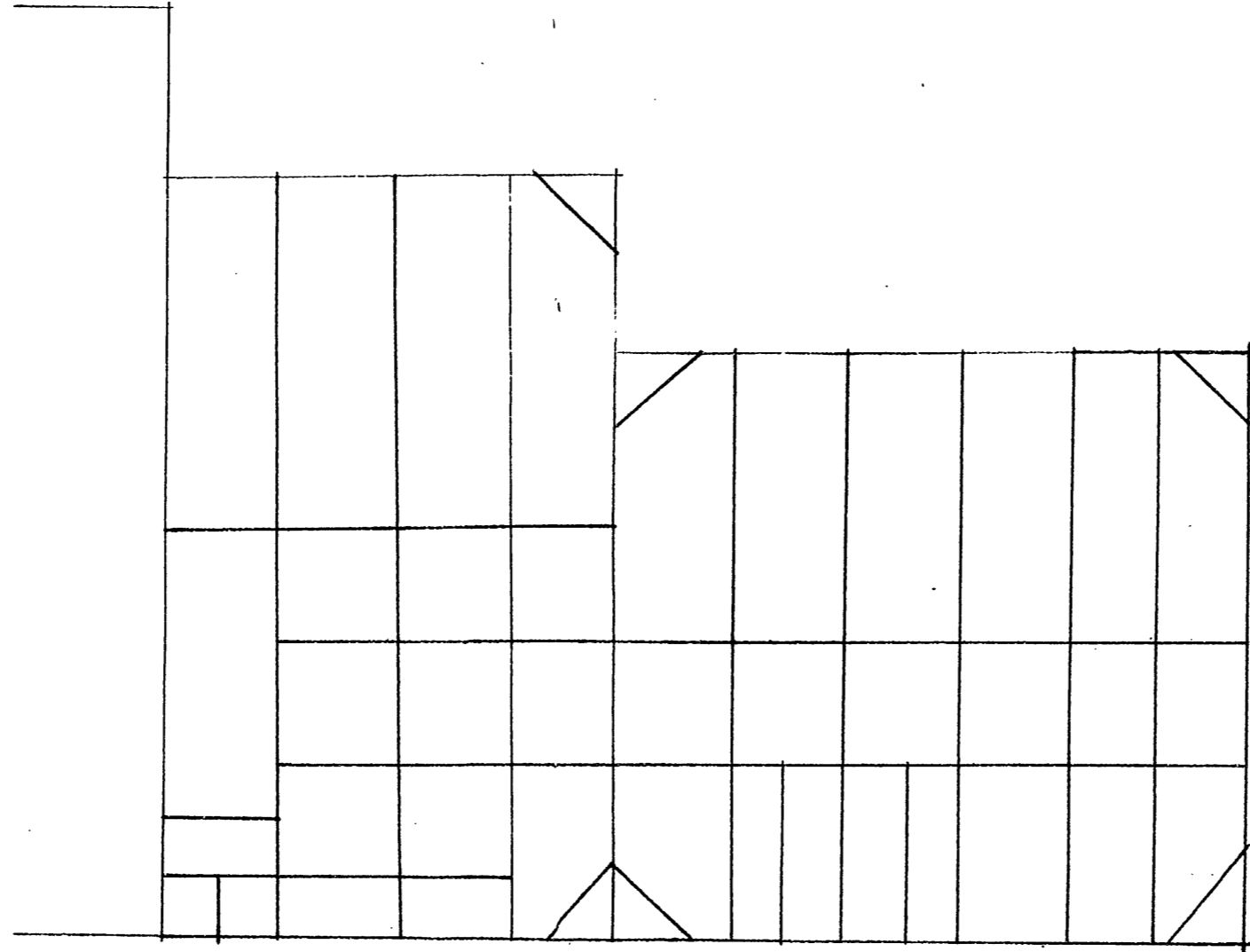
428T



陸軍糧秣本廠札幌派所小樽出張所事務所災害平面図

1878

小間取



事務所小屋伏之図



凡例

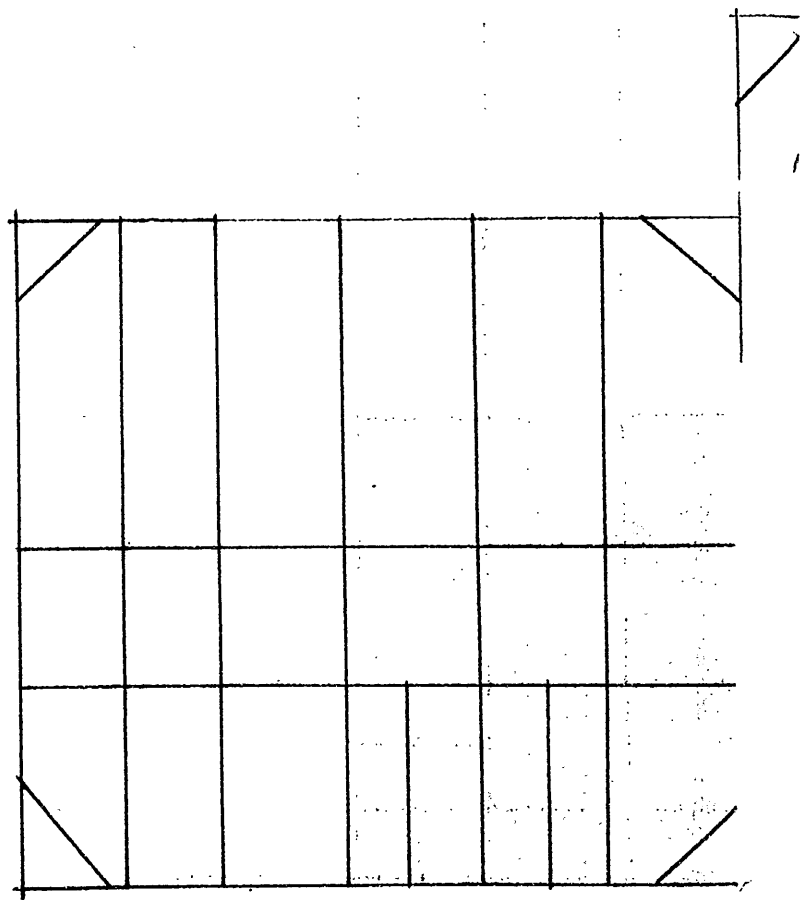
| 被害ヲ受ケタル所ヲ示ス
 | 被害無キケ所ヲ示ス

1878-2

878

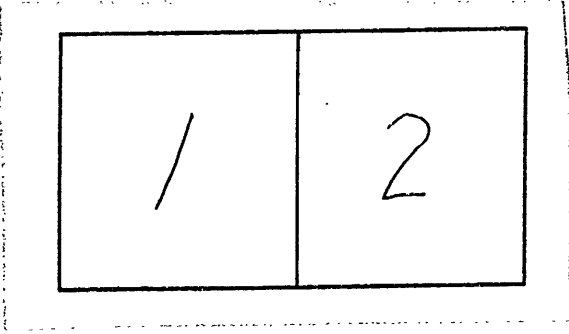

小屋伏

井家正六郎次郎



一 波留新井正六郎次郎
 一 波留新井正六郎次郎

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>6 年 9 月 13 日</p> <p>主務者又は</p> <p>撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

陸軍糧秣本廠札幌出張所樽出張所
倉庫平面図

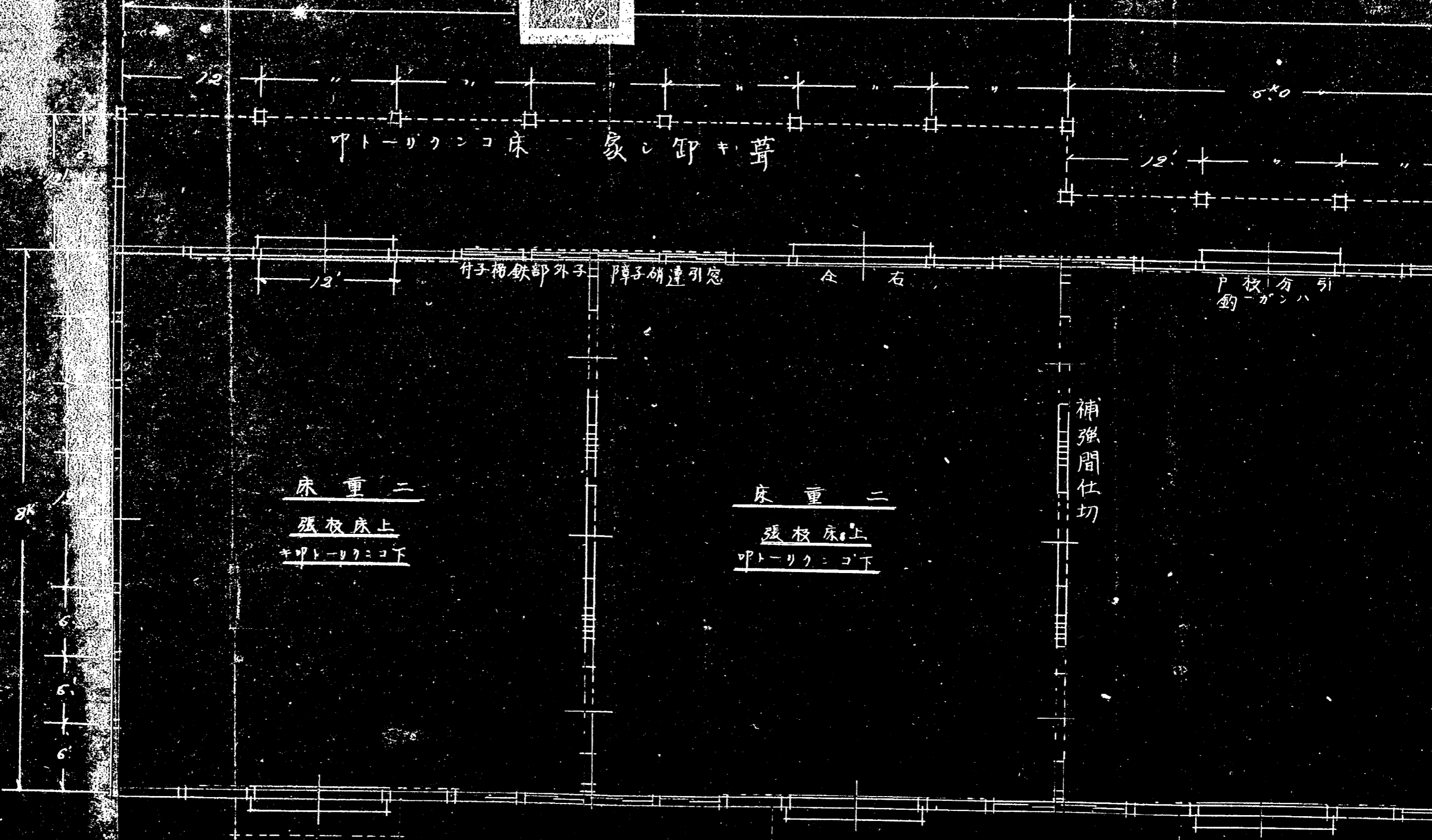
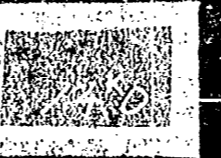
百分一

凡例

被害ヲ受ケタル所ヲ示ス



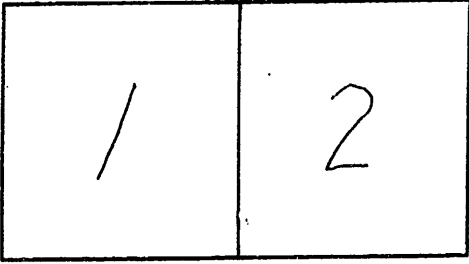

088T



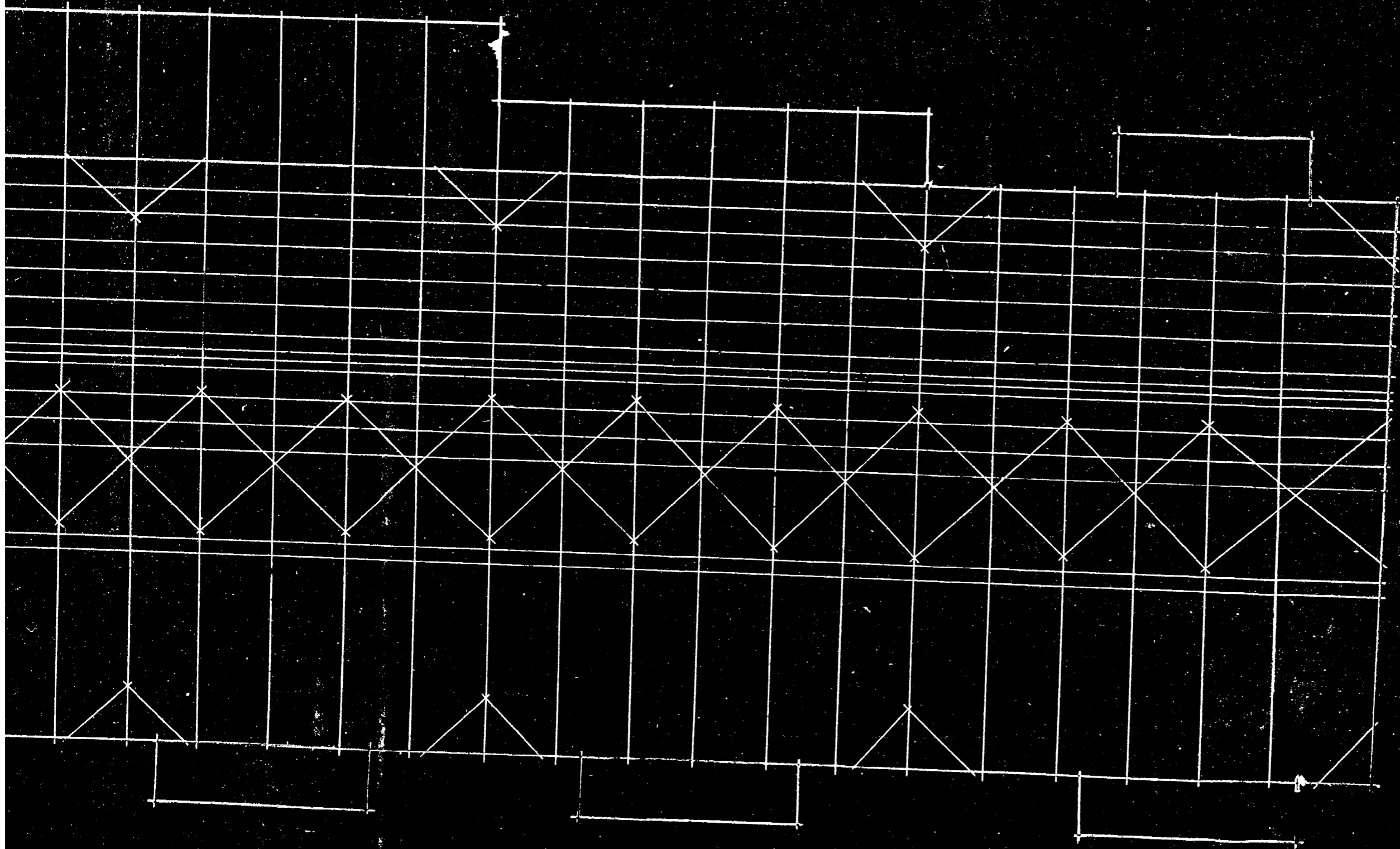
1881

倉庫平面

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>6年9月13日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

倉庫小屋伏之図



凡例

被震無サケ所ヲ示ス
被震受ケタル所ヲ示

